

進路指導部通信

県立高等特別支援学校

進路指導部

2019. 1. 11 NO. 8



2019

新しい一年が始まりました。今年もよろしくお祈りします。

さて、生徒の皆さんは、今年の目標を決めましたか。

「一年の計は元旦にあり」ということわざを聞いたことがある

と思います。充実した一年を送るためには一年の初めにきちんと

と目標や計画を立てて努力することが大事だという意味です。

このことわざの由来を調べてみると以下のように書いてありました。

「一年の計は元旦にあり」の由来は「月令広義」

「一年の計は元旦にあり」の由来としてあげられるのは、中国の明代に憑慶京という学者によって著

された書物「月令広義」です。「月令広義」は中国の伝統的な年中行事やしきたりが解説されてい

るもので、そのなかに「一日の計は晨にあり、一年の計は春にあり」という一文が記載されています。

晨は「あした」と読み朝のことを指すもので、朝と書くこともあります。春は正月を意味していて、全体で

は、一日の初めである朝や一年の初めである正月にこそ計画を立てるべきである、という戒めです。

なお、一日は「いちにち」や「ついたち」ではなく、「いちじつ」と読むのが正解です。

「一日の計は晨にあり、一年の計は春にあり」のあとには、「一生の計は勤にあり、一家の計は身にあり」という言葉が続きます。全体では初頭に計画を立てることで日々の充実度が決まり、勤勉に働くことで一生が決まり、健康維持によって一家の行く末が決まるという意味合いになります。このな

かの「一日の計」「一年の計」「一生の計」「一家の計」を合わせて「四計」といい、よき人生の設計

に欠かせない大切な計画とされているものです。

毛利元就の言葉も「一年の計は元旦にあり」の由来

「一年の計は元旦にあり」のもうひとつの由来としては、毛利元就が語ったとされている「一年の計は春にあり、一月の計は朔にあり、一日の計は鶏鳴にあり」があります。

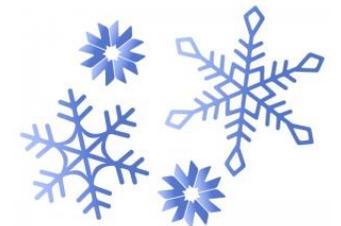
朔は「ついたち」と読み、月初めの日のことです。また鶏鳴は「けいめい」と読み、鶏の鳴き声のことから一番鶏が鳴く早朝のことを指す言葉です。

毛利元就の言葉は、一年、一月、一日それぞれの最初のときこそが計画を立てるべきときであるということを使ったもので、何事も最初が肝心であるという戒めを意味しています。

出典：[TRANS.Biz](https://biz.trans-suite.jp) <https://biz.trans-suite.jp>

由来を知ると、目標を立てて実行していくことが、自立につながり、自分の人生を形成していくことになるのだということがよく分かりますね。

元旦も正月も過ぎましたが、まだ3学期は始まったばかりです。「思い立ったが吉日」という言葉もあります。今から自分に合った目標を立ててすぐに実行していきましょう。新しい一年に何を頑張るのか、どんな大人になりたいのか、しっかり目標を決め、やるべきことに精一杯取り組み、自分の将来に向かっていって欲しいと思います。



～3年生は内定実習、結合実習に向けて～

文化祭の翌週2月4日(月)から、3年生は内定実習に行きます。同じ時期に結合実習に臨む生徒や、合同面接会に参加する生徒もいます。入社後にスムーズに働けるよう、現場でしっかり経験を積んで来てください。また職場でのコミュニケーションはとても重要です。年上の先輩方と話をすることは難しいと感じるかも知れませんが、気持ちのいい挨拶、素直な態度があればどの職場でも温かく受け入れてもらえると思います。元気さ、素直さ、勤勉さ等、皆さんの持っている美点をしっかり発揮できるように頑張ってきてください。また、寒い時期ですので、体調管理や通勤中の事故等にも気をつけて、遅刻や欠勤がないように9日間頑張ってきてください。